

「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会委員発言要旨 ー地域づくり部会ー

開催日：平成22年7月13日（火）10:00～12:00

場所：トキハ会館 カトレア

出席委員：宇津宮部会長、桑野副部会長、小方委員、金丸委員
佐藤委員、荷宮委員、橋本委員、和田委員

テーマ1 長期総合計画「安心・活力・発展プラン2005」の 評価と課題について

〔議事概要〕

(1) 計画期間の前半を振り返って

- ・国際交流は、これまで先進的な取組をしたかもしれないが、指標の実績が上がっていない。留学生の中には、日本語の習得等の難しさから、地域に馴染めず、交流を行わないまま、外には出ず狭い社会の中で大学生活を終えてしまう学生もいるのではないか。
- ・留学生のボランティア利用が少ないが、その理由を分析し、どのようにしたら増加するのか研究すべき。
- ・海外からブルーツーリズムの仕組みを学びに来たり、APU と連携して農村生活の交流が行われているが、このような活動が数字として表れていないのではないか。
- ・古民家を活用した交流活動等、起業等を行っている人がかなりいる。地域は活性化しているので、何とかこれを指標化できないか。

(2) 新たな政策・施策課題について

- ・県内で活動している外国人ガイドは、積極的に外国人観光客を呼び込んでいる。留学生にも協力してもらい、県内の観光地でガイドとして活躍してもらえれば、外国人観光客の増加に期待できるのでは。
- ・環境に対する意識の変化に応じて、レンタカーにハイブリッド車を導入したり、公共交通の利用を促すなど、「環境に配慮した観光地」といった概念がこれから大切になる。そういった記述も必要では。
- ・宮崎県で発生した口蹄疫は、観光に大きな影響を及ぼした。「観光危機管理」という観点から、同様な事案が発生した場合を想定し、対応策を考え、周知しておくことが重要。

(3) 今後の方向性について

- ・県外で大分の宣伝をした際、大分へは、どこから行くのか、どこで大分の観光パンフレットを入手できるのか皆知らなかった。高速道路無料化等で交通体系が変わっており、県外事務所を活用してもっと中心部でPRすべきでは。
- ・東京では、大分県の食やB級グルメ等宣伝されておらず、大分に来たくなくなるような情報発信が必要。
- ・都市部でのイベントや、アンテナショップで、観光地図の配付等による情報発信がもっとスムーズにできたら良いのでは。
- ・大分県は真竹が有名なのに、観光に充分活かされていらない。真竹の食文化や工芸、音楽等を、アジアの竹文化として世界に向けて発信してはどうか。
- ・まだ発掘されていない地域資源に目を向け、新たな観光資源としたり、地場産業を活用した産業観光や、温泉や検診を利用したメディカルツーリズムにも取り組むべき。

テーマ2 ツーリズムの推進と関連基盤の整備について

【提案理由】

〔現 状〕

- ・九州新幹線の全線開業（平成23年3月）や高速道路の無料化社会実験の開始（平成22年6月）、スカイネットアジア航空（SNA）の大分空港への新規就航（平成22年10月）など交通面での変化に加え、近年の旅行形態の団体から個人・グループ化への流れなど、本県観光を巡る環境が大きく変化する中で、観光客のニーズに応えた受入れ対策や誘客対策の一層の充実が求められている。

〔課 題〕

- ・観光客が本県まで足を伸ばすための情報発信や交通手段への対応強化。
- ・交通手段の選択肢が少ないことや十分な道路整備が行われていない状況などから、観光地へのアクセスが不十分。
- ・県が実施した宿泊客アンケートからも、観光地までの道路状況や案内標識に対し不満を持っている観光客が多いことが分かった。

【県民の意見】

- ・目的地までの標識が少なく、車の運転には不便。
- ・標識がもっとわかりやすいと車で来ても動きやすいと思う。
- ・空港からの路線バスの情報はインターネットで調べても少ない。
- ・高速道路が少なく移動するのに不便。

（以上、平成21年度宿泊客アンケートから）

【議論のポイント】

観光客の満足度を高める環境整備

- ・九州新幹線開通や高速道路の料金割引・無料化（高速道路、空港道路等）、SNAの就航など新たな交通事情の変化や観光客の志向の変化にどのように対応すべきか。
- ・円滑な観光地等へのアクセス（道路整備、案内標識、公共交通のあり方等）をどう確保するか。

【議事概要】

（1）交通情勢の変化への対応

- ・SNAが就航するが、どういった客層がターゲットになるのかマーケット調査を行うべき。
- ・高速道路無料化により、車での移動が多くなるが、案内標識がなければ観光客の「不安・不便・不自由」を解消することはできない。
- ・空港や駅に到着した後の2次交通が不便であるため、車を利用する観光客が多い。従って、マイカー対策として観光地で駐車割引券の交付を行えばアピールになるのでは。
- ・九州新幹線開通に対しては、ゆっくりとした時間を過ごせたり、珍しい電車を走らせるなど、対極のものを用意し、その中で大分の魅力をアピールしてはどうか。

（2）外国人観光客の誘致

- ・今まで、韓国、台湾からの観光客が重要視されていたが、今後は個人ビザ解禁により増加する中国人観光客をいかに吸収するかが重要。

- ・ 中国人旅行客の魅力は支出が大きいことであり、中国人旅行客を取り込むためには、中国人観光客が利用する銀聯カードが使えることをPRすることも重要な手段。
- ・ 留学生にガイドの通訳を依頼し、外国人観光客が、空港や県内の観光地でガイドを利用できるような仕組み作りができればよいのでは。

(3) 地域との関わり

- ・ 道路や標識の管理に、地域のボランティアを活用できないか。地域と行政の関係の仕組み作りを行うことも必要。
- ・ 観光地のきれいなイメージづくりのためには、住民自らが草刈り等の景観維持に取り組まなければならないのでは。
- ・ 観光地の景観に配慮した道路づくりや、電線の地中化等の取組が必要。

(4) 観光標識について

- ・ 山間部など標識がわかりにくいことが多い。地域住民と標識設置者と外部がチームを作り、実際に走って検討してみるはどうか。
- ・ 県境に大分県の観光案内板や標識を設置することにより、観光客の周遊が増加するのでは。
- ・ 看板や標識は、景観を損なわずかつ統一されたものを設置すべき。